



内子座 藝於遊



壁補強板取付用調整材の取付

令和 8 年 7 月に入り、壁補強用のポリカーボネート板を取り付けるため、6 月後半から始まった付け貫取付に続いて、木の調整材取付が始まりました。何を調整するかというと、簡単にいえばポリカーボネート板と柱や梁との隙間の調整です。内子座の柱や梁は経年変化や材料の形状により、水平、垂直ではない部分があるため、ポリカーボネート板を水平、垂直に取り付けられるように薄い板を使用し角度を調整します。同じ角度が一つとしてない調整材を製作するのも、職人の技です。

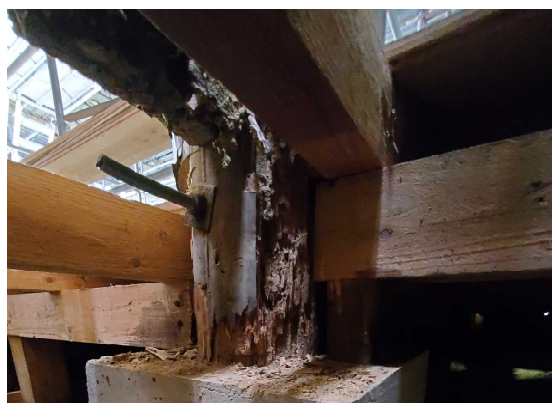


▲写真上：調整材を製作するため寸法を取っている様子。水平を出し、差し金を当てて採寸する。▲写真下：製作された調整材。写真ではわかりづらいが、斜めに削り取られた薄い角材の数々である。どの壁の、どの柱の、どの面に、上下左右をどの向きに取り付けるのか記されている。

調整材が入った壁の様子(7月6日撮影)



木部の腐食



解体作業が終わり、調査を進める中で、木部の腐食部分が明らかになってきました。上の写真は義太夫床の丸柱の根元部分です。これ以外にも、東西棧敷にある丸柱の根本や西櫓 1 階の土台となる柱など、主に建物基礎と接する木部に腐食が進んでいることが確認できました。今後、腐食部分を取り除いていき、改めてどのように補修するかが決められます。